

## 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価結果

<b>機関名</b>	高知工科大学	<b>拠点番号</b>	K27
<b>申請分野</b>	K<革新的な学術分野>		
<b>拠点プログラム名称 (英訳名)</b>	社会マネジメント・システム～社会基盤工学的視点によるアプローチ～ (Social Management Systems)		
<b>研究分野及びキーワード</b>	<研究分野:土木学>(ニュー・パブリック・マネジメント)(建設マネジメント)(維持管理・点検診断システム)(ライフ・シミュレーション)(アセットマネジメント)		
<b>専攻等名</b>	工学研究科基盤工学専攻		
<b>事業推進担当者</b>	(拠点リーダー名) 那須 清吾 他18名		

### ◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成18年4月現在）を抜粋

<p>&lt;本拠点がカバーする学問分野について&gt;</p> <p>「社会マネジメントシステム」は、行政・環境・社会基盤経営の各分野のマネジメントシステムによって構成され、社会資本の維持管理や耐久性向上技術、アセット・マネジメント技術から建設マネジメント技術を包含する社会基盤工学を基礎として扱う。</p> <p>&lt;本拠点の目的&gt;</p> <p>「社会マネジメントシステム」は、社会資本整備に関連した社会システムの効果を計測、評価する工学体系に、経済学・社会学等の社会科学分野の論理を取り入れ、既存研究領域と社会的課題を結ぶ技術に立脚した体系的マネジメント技術の学問領域を確立することで、社会の構造改革・効率的な運用の手段と人材を提供し、アジアを中心とする各国研究者とも連携し、安全で効率的な社会システムの実現を図る。</p> <p>&lt;計画・当初目的に対する進捗状況等&gt;</p> <p>1) 研究に関わる進捗状況</p> <p>①社会資本マネジメントシステム・・・コンクリート構造、鋼構造等の劣化特性に関わる基礎実験から劣化シミュレーションモデル構築、社会資本のサービスレベル等のアウトカム指標管理や資産評価、予算管理・配分に至る基礎的なアセットマネジメントシステムの基本理念およびプロトタイプシステムを構築した。</p> <p>②行政マネジメントシステム・・・行政マネジメントシステムを、工学的計測・評価および経済学的・会計学的評価を融合することで構築し、システムが機能する行政組織・プロセスの構築を行った。</p> <p>③環境マネジメントシステム・・・環境の様々な価値に着目し、投資の様々な環境効果の工学的計測・評価および経済学的・会計学的評価を融合することで環境価値をニーズに応じて相対化する環境マネジメントシステムの基本理論を構築した。</p> <p>2) 教育プログラム</p> <p>①国際コンサルティング・エンジニアリングコース(博士) ②大学院社会人特別コース(修士)</p> <p>③ポスドクおよび助手を雇用し、研究に従事するシステム(若手研究者)</p> <p>3) 研究・教育に資する拠点形成</p> <p>①社会マネジメントシステム学会(国際学会)の設立 ②各国の研究拠点形成(中国、韓国、台湾、タイ、スリランカ、インドネシア、カンボジア、米国など)</p> <p>4) 普及・研究交流</p> <p>①国際ワークショップの開催 3回 ②国内ワークショップの開催 9回</p> <p>&lt;本拠点の特色&gt;</p> <p>社会資本整備に関連した工学体系に、経済学・社会学・法学等の社会科学分野の論理基盤を取り入れた体系的マネジメント技術の確立を特徴とする。「社会マネジメントシステム」の概念に従って、実施しようとする社会システムの効果を予測、計測、評価する技術を見出し、効率的な目標達成方法と経営改善方法を導出することが出来る。新たな学問領域として確立し、工学的な予測、計測および評価技術の向上と、これらの技術の導入効果が社会システムに及ぼす様々な変革・影響について分析・評価する研究を進め、安全で効率的な社会システムを実現する。</p> <p>&lt;本拠点のCOEとしての重要性・発展性&gt;</p> <p>行政経営システム、社会資本アセットマネジメント・システム、国際建設マネジメント・システムなど、既に「社会マネジメントシステム」において主要テーマとして取り上げた研究教育についての行政・企業等と協力して、具体的な研究・教育・社会貢献活動を実施している。既存研究領域と社会的課題を結ぶ技術に立脚した体系的マネジメント技術の学問領域を確立することで、社会資本・行政等に関わる重要で具体的な問題に対応した、研究・教育の急速な進展が求められている重要な分野である。</p> <p>&lt;本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果&gt;</p> <p>社会システムの改善に関わる体系的マネジメント技術が確立され、この分野に従事することが出来る人材の輩出が可能となり、社会の抱える社会システム上の課題克服に資する。また、社会資本の耐久性向上技術や健全度評価技術、効果評価技術などの工学分野の変革と、社会科学の分野と融合した新たな相互領域の活用技術を創出することが期待できる。</p> <p>&lt;本拠点における学術的・社会的意義等&gt;</p> <p>社会資本等の効率的な建設・運営とサービス提供システム、投資効果の計測・評価プロセスやルールを含めた政策・施策・事業などの評価・予算配分・サービス水準などの決定システム、財政状況とサービス戦略を均衡させる行政経営システムなど、今日の日本における主要な課題を克服する具体的な社会システムを提供するとともに、当該分野を担うことが出来る人材の育成・提供、社会システム技術体系が確立される。</p>
--

## ◇21世紀COEプログラム委員会における所見

### (総括評価)

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。

### (コメント)

人材育成に関しては、社会企業家コース、休日双方講義、英語コース等を設置し、各種の人材育成に対応している努力は十分認められる。これをベースに、更なる人材育成への努力をし、このプログラムによる成果を高めていただきたい。

有機的連携に関しては、国際的ネットワークをつくり国際学会を立ち上げる等の努力は認められるが、その継続性、活性化に更なる努力を図られたい。また、国内の行政等とも、国、県、市町村各レベルで協力関係をつくるなどの努力が見られる。社会基盤マネジメントシステム、行政マネジメントシステム、環境マネジメントシステムの確立を目指し、これらの有機的連携を十分に活用し、実現性の高い“革新的”システムに向かって更なる努力が望まれる。

研究活動については、社会基盤、行政、環境の3つのマネジメントシステムの確立を目指しているが、このプログラムで残された時間内での到達点を3つのマネジメント毎に明確にし、成果を十分に挙げられるよう一層の努力が望まれる。